

5-D アスナロ(翌檜)の巨木

(ヒノキアスナロ[ヒバ]を含む)

ヒノキ科アスナロ属
Thujopsis dolabrata

■アスナロの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 7m 以上の単幹樹、同等評価のアスナロの巨木。
- B 幹周おおむね 5~7m の単幹樹、同等評価のアスナロの巨木。
- C B 評価以下のアスナロの巨木。

■アスナロ・ヒノキアスナロの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	十二本ヤス 写真 A-001	M7.13m(1.3m 2008)	27m	青森県五所川原市金木町吉喜良市	市
B	脇野沢の千年ヒバ 写真 A-002	M6.2m(上部 0.3m 2008)	30m	青森県むつ市脇野沢国有林	なし
B	乳房ヒノキ 写真 A-003	M5.97m(0.3m 2008)	27m	北海道福島町福島川濯神社	道
B	アテの元祖(二本) 写真 A-004	4.0m 3.6m	27m	石川県輪島市門前町浦上	町
C	薬研の金剛ヒバ	5.2m	29m	青森県むつ市増古部山	なし
C	山王神社のヒノキアスナロ	5.4m	32m	岩手県下閉伊郡岩泉町二升石字和村	なし
C	道満の三光ヒバ	6.5m	29m	山形県天童市道満春日神社	市



◀◀写真 A-002

わきのさわ せんねん
脇野沢の千年ヒバ

2~6m で 6 分岐し、垂直に幹を伸ばし、急斜面に立つ。

(写真・Web 画像)

写真 A-003▶

ちぶさ
乳房ヒノキ



写真 A-001▼▶
日本一のアスナロ
じゅうにほん
十二本ヤス

日本一のアスナロは、太宰治の生家がある金木町の約10キロ東方の山中にある。細い道の先に突如として出現する黒い巨体は実に凄みがある。地上3m程で分岐し、その分岐幹が12本あり、それが魚を突くヤスに似る事からその名がある。幹周は7m程だが、分岐部の幹周が12m程で、より巨大に見える。日本一の所以。

見る方向によって大きく樹形が変化する巨樹である。丁寧に探すと、12本の幹が見える位置がある(右写真)。背後に回ると、まるで青銅器でも見るような重量感溢れる雰囲気がある(下写真)。根元には、素朴な鳥居が置かれ、地元の山の神としての信仰を集めている。

根元に空洞があり古株の痕跡が残る。分岐部付近の古株から発芽した実生伏条幹が12本出て、幹に見える部分は根が発達したものの。古株更新ならではの樹形である。



▲写真 A-004

アテの元祖
がんそ

藤原秀衡の血を引くとい泉家の裏庭に、先祖が奥州から持ち帰ったというヒノキアスナロが二本立っている。能登では方言でアテと呼び、現在では広く能登の山林に植樹されている。その親木となったものである。写真は1970年の撮影で、現在はかなり弱っている。